

クモ膜下出血 ちょっと知っておいた方が良い話

渡辺クリニック 院長
渡 邊 直 文 先生

脳や脊髄は表面を軟膜、その外側をクモ膜という膜に包まれています。このクモ膜と軟膜の間に出血を来した場合をクモ膜下出血と呼びます。クモ膜下出血の原因にはいろいろなものがありますが、今回は原因として最も多く 80%以上を占めるといわれる脳動脈瘤破裂についてお話しします。

脳動脈瘤破裂によって起こるクモ膜下出血は、突然起こる激しい頭痛（「バットで殴られた、頭が割れるような」などと表現されます）で始まり多くの場合嘔吐を伴い、時に意識障害・けいれん発作を見ることがあります。こうした典型的な症状で発症した場合は、周囲に誰か居れば直ちに救急車を呼ぶことを考えさせる状態であり、発症間もなく救急病院での治療を受けることとなります。ただし救急病院に行き着いても、一安心とはいかず全体の3分の1の方は死に至る厄介な病気です。

クモ膜下出血の中には、数としては少ないのですが、軽い頭痛で始まる方がいます。症状が軽いことは良いのですが、当人も周囲の人も重大な病気と思わず、また専門医の目も欺くような発症の仕方は診断を遅らせ、治療の着手を遅らせ、運悪く致命的な大きな再発作を起こすことがあります。この軽い頭痛は動脈瘤からのわずかな漏れ出すような出血によるもので、警告頭痛とも呼ばれます。この時点で運良くクモ膜下出血が疑われれば、致命的な経過に至る可能性は減ります。

慢性的な頭痛の方は別として、比較的軽いが「いつもとは違う・違和感を伴うような頭痛」を感じた方は、万が一を考え専門医のいる病院を早急に受診してください。

最近ではいろいろな脳の病気の他、脳動脈瘤が破裂する前にこれを見つけ、クモ膜下出血の発症を防ごうという目的で、脳ドックが行われるようになっていきます。出血した場合の重大な結果を考えると、これも大いに利用すべきでしょう。ただし動脈瘤を見つけても手術が難しく実施できない方もいるので、検査前に相談しておくといいでしょう。